

都市と農山村の共生に向けた価値の創造事業

概要

【背景】 木島平村は、全国有数の豪雪地帯であるが、カヤの平高原のブナ林、そこから発する名水、歴史ある内山和紙、有機の里づくり、さらに全国のトップレベルの評価を受けた「木島平米」等に取り組んできた。しかし、高齢化による荒廃農地、人・土地・誇りの空洞化を起している。そこで、平成21年「農山村交流全国フォーラムin木島平」を開催し、農村文明という新たな価値観を提唱し、農村文明の全国運動の展開が宣言された。

【事業概要】 農村再生の課題と都市住民の関心のある3つのプロジェクト(「棚田再生」「森の再生」「教育力再生」)を立ち上げ、地元村民と都市住民との協働の事業として取り組んだ。また、オープンカレッジでは、3人の村長による鼎談(写真右)を行い、少なくなった「村」の存在意義をアピールした。

長野県木島平村



事業の内容

事業内容

【3つの再生プロジェクト】 ①棚田再生については、今まで交流を進めてきた早稲田大学生によって雑草で覆われていた棚田の石垣があらわになり 感動へとつながり、冬の除雪ボランティアに発展し、棚田学習会にも参加しリピーターとなった(写真右上)。

②森の再生では、かつて木島平村のブナの森フォーラムへの参加者を対象に行い、ブナの稚苗を採取し、それを各自が育て採草地のブナ林に戻す取組みの一步を築いた(写真右下)。

③教育力の再生では、23年度予定している調布市の子ども滞在を農家やお寺へ泊めて農村らしい教育(体験)を提供するためのプログラムの取組みに踏み出した。

【オープンカレッジ】 平成の合併で1/3に減少した「村」の役割を明らかにするために、「日本で最も美しい村連合」の福島県飯舘村、「全国水源の里連絡協議会」の山梨県道志村、そして「農村文明」創生の木島平村の3村長による鼎談を行い、「村」の役割と存在意義を確認した。さらに、現在交流を持っている大学やインターンシップの学生との連携や交流を前進させるために、農村版の「大学コンソーシアム」構想の可能性を明らかにした。将来的には、夏休みにおける単位互換制度の可能性を追求した。

ポイント

再生プロジェクトについては、それぞれのテーマに基づいて、対象者を設定し、実施した。棚田再生では、インターンシップなどで来村した早稲田大学生をリピーターに、森の再生ではかつてのファンクラブのメンバーに焦点を当てリピーターとして実施し、次のステップに活かす。



事業の成果

3つのプロジェクトについては、3ヶ年の計画としてその継続を図り、課題解決に向けた取組みが確認され、継続したりピーターとしての参加が可能となった。また、大学コンソーシアムについては、今まで交流を持ってきた大学との連携を図りながら、23年度の夏休みを利用して、4泊5日のプログラムを実施することになった。23年度については、実験事業として各大学合同のプログラムとして実施、25年度以降単位互換性の可能性を追求し、実践的な農村文明研究の拠点とする。また、事業主体として農村文明塾は、公益性を重視した、村民参加協働型の非営利組織を目指し、その体制を固めつつある。その体制の一環として、「村民研究員」制度を創設し、村民の主体的な取組みとして「村民による白書づくり」の作成へと発展している。